

# ミノルタ千代光会 会報 No.155

令和4年度

高野山物故者慰霊祭

10月7日に執り行われる  
22名の方々を合祀



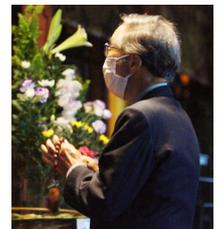
「彼岸花揚羽」この写真は新しく買った望遠レンズを使いこなすために、彼岸花とアゲハ蝶の被写体を狙って近くの田んぼ道へ出かけて撮った写真です。撮ると言っても自然が相手なので、こちらの思う通りにはならず、まずは背景や光線状態の条件が揃った場所を探るところから始めます。場所を選んで蝶々がいなくてダメなので、蝶々が飛んで来る場所を選び直したりして注意力を切らさず待ち受けます。幸い今回は半日×2回で運よくチャンスに恵まれました。【撮影：加茂清次】

## 本年度物故者慰霊祭法要 南院にて



大霊園に移動12時より慰霊祭  
ミノルタ慰霊塔にて

内海法印よりご法話



参列者 香を手向ける



激しい雨音の中、読経の声が朗々と響きわたり、参加者全員が焼香。



10月7日(金)高野山は雨脚強く本降りの雨の中の慰霊祭となりました。また今年も未だコロナ禍が続く中でもあり、残念ながら3年続いてご遺族や会員の皆さまには参列を控えていただくことになって、ユニカミノルタ株式会社・労働組合ご来賓とミノルタ千代光会関西地区理事・監事ら関係者のみの参列で開催することになりました。

会社からは秘書室長遠山光佑様、関西支社長代理鈴田透様、労働組合副中央執行委員長原山義雄様のご参加をいただき、ミノルタ千代光会からの参列者合わせて16名で執り行われました。午前11時より別格本山南院に於いて内海照隆住職が導師として、今年新たに合祀された22名の方々の法要が営まれました。読経の続く中、合祀された皆さまのご冥福を祈り、参列者全員が香を手向けしめやかに法要が終わりました。その後ご住職より「未だコロナ感染が続く上にウクライナ/ロシアで戦争が起こり、不安定な社会情勢が今も続いています。南院のご本尊は浪切不動尊です。こんな時こそ落ち着いた行動ができるように、不動尊の示される揺るぎなき不動の心をもって日々を過ごすことの大切さを思い出してください。そして創業者の思いを大切に、皆

(次のページに続く)

### 目次：No. 155

高野山物故者慰霊祭	1-3
事務局からお知らせ	3
理事会便り	3
会員便り	4
追悼の辞	4

2022年度合祀の方々(敬称略)

伊藤 政輝	勝山 訓男
村瀬 蔵雄	谷口 允康
藤井 忠義	山野井 頼雄
青木 喜三郎	佐野 明
小東 勤	木村 弘
新井 忠司	大根田 正一
長谷川 吉加	森 重喜
柴田 道輔	市川 恵一
奥村 脩	望月 清重
西前 久幸	鶴岡 襄治
吉岡 宏	西岡 一夫

○会員の皆さん 高野山へお詣りの節は南院へもお立寄り下さい。  
千代光会からのお詣りとお伝えいただければ過去帳厨子も拝観できます。  
※南院へは、高野山駅よりバスに乘車、浪切不動前で下車  
※ミノルタ慰霊塔のある霊園へは、奥の院前で下車

高野山金剛峯寺の公式ウェブサイトは

<https://www.koyasan.or.jp/>



様方のご努力と深い志をもって永く慰霊祭を受け継ぎ続けていただきたい」とのお話がありました。初めての南院お参りの方もあり皆で堂内を一周、その後控えの広間で記念写真を撮りました。



南院44世現ご住職の内海照隆大僧正は、今年2月に高野山真言宗総本山金剛峯寺の第523世寺務検校執行法印に就任されました。法印は弘法大師の名代とされ、高野山内の最高位の僧職で、1年の任期中主要な行事の導師をお務めになります。法印のみに許される緋色の法衣袈裟姿のご住職を囲んでの印象深い記念写真となりました。

その後奥之院大霊園ミノルタ慰霊塔に移動。雨は降り止まず、テントの屋根に溜まる雨水の量も多くなつて、式の前に垂れ下がったテントを棒で突き上げ排水する作業を落ち着かぬ思いでながめました。

慰霊祭は12時より開始、例年通り最初に慰霊塔建立の主旨「先賢の霊(みたま)に捧ぐ」を朗読させていただきました。『諸士の汗と涙によりて築かれミノルタの歴史を顧みて……』このくだりになるといつも大勢の方々への謝恩の思いが一層心に沁みます。今年には内海周浩副住職が導師として務められ、激しい雨音の中でしたが読経の音が朗々と響きわたりました。参加者全員が焼香、今年合祀される22名の方々の銘板を大場会長の手で安置していただき、慰霊祭は滞りなく執り行われました。



大場会長

その後、レストラン楊柳に移動。大場会長より慰霊祭を継続していくためにも、若い方々の参加を得て理解を深めてほしいという気持ちを込め

てのご挨拶。続いてご来賓の遠山光佑様からご挨拶をいただきました。初めて高野山のミノルタ慰霊塔にお参りして、人を大切にしてきたミノルタの真髓にふれ敬服の念を深めましたとのお気持ち、併せて様々な困難なことが起きているこの社会状況の中でのご事業について紹介があり、今後とも応援を続けていただきたいとお話でした。労組を代表してご参加くださった原山義雄様も、慰霊塔には初めてのお参りで感慨深い様子でした。



田嶋英雄総代

田嶋英雄総代の合祀者を偲び冥福を祈つての献杯のご発声で会食に入りました。完全にコロナ感染が終息していない折、黙食と静かな会話という制約付きのもどかしい会食でしたが久しぶりに顔を合わせての歓談を楽しみました。

会食後は、奥之院へお参りされる方、帰路に向かう方とそれぞれの道へお別れました。様々な制約がある中で慰霊祭実施に向けて、遠路お運びいただきご参列くださった皆様、そしてご手配くださいました事務局の皆様さまにお礼申し上げます。来年こそはご遺族そして会員の方々を迎えるのにぎやかな慰霊祭ができますように、切に祈る思いでした。

雨は降り続き傘をさしての散策となりましたが、壇上伽藍へ周り、紅葉にはまだ早いものの少し色づいた木々の中を歩きました。ある塔頭の門前に白い秋明菊が咲き乱れ風に揺られて、秋の風情をひとしお楽しむことができました。

慰霊祭に参列された理事・監事の方々に、昨年が続いて今年も参加された思いを自由に語っていただきました。激しい雨降りの中での慰霊祭となったためでしょうか、皆さまの印象が強くお心に残ったようです。当日の雰囲気をご鑑賞ください。



遠山秘書長

おめでとうございます

団=中部地区会員  
園=関東地区会員  
無印=関西地区会員

<古稀>

8月	三盛	啓充	松本	安雄	園
9月	荒川	三治	永澤	康弘	斎藤 正弘
	中永	正二			
10月	伊丹	節子	白野	隆広	中西 勇人
11月	花岡	善行	及川	明久	園

<喜寿>

8月	安藤	裕	園	塩津	陽三	竹村	弘美
9月	兼重	忠彦		山根	豊		
10月	郡	俊太郎		森田	喜巳男	園	小根山 司
11月	中野	正美		池上	登	園	大黒 卓雄
	石川	隆義	園				

<傘寿>

9月	新田	勝夫	園	広木	克充	園	原野 隆司
10月	城田	真人	園	飯田	忠司	園	
11月	渡辺	博之	園				

<米寿>

8月	田中	美津子
11月	杉本	昇

<卒寿>

9月	金谷	充朗	
11月	金岡	章夫	西島 司

お悔やみ申し上げます

和住	誠一	2022年5月 3日
木村	弘	2022年5月16日
堀川	俊純	2022年6月12日
鶴岡	襄治	2022年7月23日
榊原	進	2022年8月17日
片岡	哲彦	2022年8月26日

**お尋ね**

**氏名 : 本田 實さん**  
(旧所属事業所: 西宮工場)

本田さんの消息や連絡先をご存知の方は事務局までご一報願います。

数年前からご本人と連絡が取れなくなり、以前親交のあった方にも確認いたしましたが分かりません。

(事務局)

慰霊祭 雨脚強く スーツ濡れ  
秋雨に曇る高野山、 友を偲ぶ慰霊祭  
秋雨の 高野に登りて きみ偲ぶ  
雨の高野山。 毎年の慰霊祭に参列させていたのですが、  
創業者田嶋一雄さんの従業員に感謝してす。  
真の経営者とはこういう人だと。  
稔る田を 育てし雨の 慰霊祭  
秋しぐれ 読経が沁みる 高野山  
高野榎 往方尋ねし 寒露かな  
秋雨に 心も重し 合祀かな  
呑み友の名過去帳に 秋の雨  
祀られし人々のさんざめか 読経に重なる降りしきる音  
雨冷えの高野の山で慰霊祭  
(報告 理事 三原淑子)

**理事会だより**

9月理事会(WEB会議)

- ◇2022年度物故者慰霊祭開催について
- ◇関西地区議題
- 秋の行事について

10月理事会(WEB会議)

- ◇2022年度物故者慰霊祭報告
- ◇2022年度中間収支報告
- ◇各地区秋の行事について
- ◇中計検討委員会 答申案報告・審議
- ◇関西地区議題
- ・秋の行事について
- ・2022年度中間収支報告
- ・理事改選について

**事務局からお知らせ**

新入会員のお知らせ  
今回は該当の方なし

**【会員状況】**

10月18日現在

関西地区	[ 4 9 5 名 ]
中部地区	[ 2 0 6 名 ]
関東地区	[ 6 3 名 ]
合計	[ 7 6 4 名 ]



和住 誠一さん

5月3日死去

お盆も旬日を過ぎた八月下旬、既に五月三日に他界された、との報せ。

昨年五月に奥方を亡くされて丁度一年、お淋しくなられてせわしく後を追われた感あり。切なく無念！

氏は戦後間もない昭和二十三年にご入社。専門は計測工学。入社後堺工場や本社の検査部門で品質向上に尽力され、更に発展期のカメラ生産部門を、類い希な統率力をもって永年統括。昭和五十年には氏のリーダーシップの下、日能の指導による「目標管理」を導入し組織の力を結集した、能率、品質、コストの向上に決定的な役割を果たす。氏の最大の功績。

一方若くして経営中枢の一角を担われると共に昭和五十八年カメラ事業部発足に当たって初代事業部長に任じられる。

大局を見通す才、統率力、実行力に加え「清廉の士」と評するべきたたずまいに、あまたの部下が慕い寄る。

また関係社員の家に不幸ありと聞くや、業務に支障の無い通夜にお参りを欠かさず、世渡りの信条を終生かたくなに貫かれた。

私が未だ開発部所屬時、豊川工場長の氏がアグファアとの提携プ

ロジエクトの責任者になられ、その製品設計のリーダーを務めた私のグループが氏の指揮下に入つて初の主従関係。下つて昭和五十一年から七年間の豊川工場勤務。次いで事業部発足時五年間事業企画部を任され、都合十三年にわたり氏の薫陶を受ける。

幾度となくお供をした内外出張の機会には、時に口外憚られる内情まで拝聴でき、珠玉の時を過ごす。我が人生最大の宝。

「和住さくん、お陰様で何とか勤めを全うすることが出来ました。彼岸でまたお話を賜りたいんですが……。」惜別の念を込めて！

(久保田 勇)

木村 弘さん

5月16日死去

大先輩の木村さんへ

木村さんは昭和37年4月入社、私は昭和48年4月入社で、出会いから定年に至るまでご指導いただいた大先輩です。木村さんは私が本社人事三課採用担当在籍中にミノルタカメラ販売(株)から異動して来られました。

従つて、それ以前の職歴については詳しく存じ上げませんが、毎年、販売の第一線でトップセールスとして大きな成果を上げて来られたと聞きました。

人事三課では大卒文系、高専、短大の採用を担当されました。声が大きく、良く通り、明朗快活な方でした。当社を志望する学生にも明るく丁寧に対応し当社の認知度の確保に多大な貢献をされました。木村さんの面接を受け当社に入社した学生も多くいたと記憶しています。

「伊丹工場」編・追加寄稿  
関東地区会員 神 猛史

木村さんはその後、ミノルタ保険代行(株)に異動し定年を迎えられました。

この頃から木村さんをはじめ人事部OBを中心に毎月一回大阪心斎橋の居酒屋で飲み会を始めました。話題が豊富な木村さんはいつも会話の中心におられました。ご家族との海外旅行、ゴルフ、株などいつも楽しそうにお話しされていました。私も販売の第一線のイロハ、ノウハウを教えていただきました。このことは後の私の販売活動のベースになったと感謝しています。

コロナ禍でこの飲み会は中断していますが木村さんは闘病中、奥様に度々「みんなに会いたい」とお話しされていたそうです。幹事の私としてはコロナ禍でやむを得ないとはいえ申し訳なく思っています。私たちメンバーも全員、もう一度あの明朗快活な木村さんに「会いたかった」です。

(三浦 英俊)

会員便り

ミノルタ事業所むかしいま

「伊丹工場」編・追加寄稿

関東地区会員 神 猛史

会社が複写機事業に取り組み始め、私は1978年8月に技術センター省力研究室から伊丹工場の感光体製造部署に転勤した。伊丹工場の門を入ると右側に文化財風の二個の大きな石車に鉄軸を通して鉱物粉砕ミル(石臼)がデンと構えて置いてあり、永年レンズ製造に関わってきた工場だと改めて実感した。

世界初の潜像式複写機のSDB感光体に引き続き開発が進められたVAB感光体を立ち上げるプロジェクトに参画した。1979年4月に#721用VAB感光体の製造工程の安定化(オーバーコート)プロジェクトがスタートし、多くの検討・施行の結果「感光体製造連続ライン」が完成した。担当したラインは増産に次ぐ増産で毎日が忙しく活気があった。

ドラム運搬車の運搬中の危険を小集団活動で改善した事や、感光体ドラムでは改善提案した電気導通不良問題の解決・PAT申請や梱包形態を改善してドラムが世界流通できるようグループでコストダウンした事・PC品質報告体制を作り品質安定化等に寄与した。現像器ではトナーボトルの大きさの標準化や色んなトナーカートリッジ設計流通に寄与できた。

伊丹工場時代の楽しい思い出は多々あるが、丹波篠山の出身者が職場にいて、職場の仲間連中と車で丹波篠山に行き、イノシシ鍋を堪能できたのは楽しい思い出の一つです。